

# 「主体的な学び」を創り出す単元開発

## 1 教師の姿勢

**ティーチャー + コーディネーター + ファシリテーター  
教えるときは教える。調整するときは調整する。見守る時は見守る**

- コーディネーターは参加者間の討議などを調整し、とりまとめる役割をもつ人
  - ファシリテーター自身は集団活動そのものに参加せず、あくまで中立的な立場から活動の支援を行うようにする。例えば会議を行う場合、ファシリテーターは議事進行やセッティングなどを担当するが、会議中に自分の意見を述べたり、自ら意思決定をすることはない。
- \*グループ討議を前提にしているものではない。全体での話し合いの場合も大切である。

### 【Point】

- 単元の中で、教えることを重視する時限があったり、考えることを重視する時限があったりする場合もあるし、1時間の授業の中でそれらが全て存在する場合もある。授業の流れの中で自然に役割が変化することを期待するのではなく、事前に設定しておくことが重要となる。
- 課題設定や目標の設定は教師でなく生徒自身にさせる。

## 2 育成を目指す資質・能力と生徒の姿の明確化

### 【Point】

- 育成を目指す資質・能力は欲張らない。本単元で育成を図りたいもの1つか2つにしぼる。
- 単元の終了後の生徒の姿を明確にし、各授業での生徒の到達度をチェックしていく。

## 3 既習知識・技能の活用を図る授業（学びの大切さを知る）

- 活用というと実社会との関連と捉えがちであるが、ここでいう活用とは、既習知識・技能をもとに新しい知識・技能を獲得するプロセスのことである。従来の授業と大きく変わってきたのは、生徒自身が既習知識・技能をもとに新しい知識・技能を獲得していくということである。これまでは教師が系統的に教えたものを生徒が理解するという授業が展開されていたため、既習知識・技能の確認はそれほど重要視されていなかったが、これからは既習知識・技能の確認が大変重要となる。

### 【Point】

- 既習知識・技能を活用して新しい知識・技能を生徒自身が獲得していく授業を仕組む。
- そのためには、既習知識・技能の確認が重要となる。

### 【例】

- 【理科】既習知識・実験技能を活用して新しい実験方法生徒に考えさせる場合、必要となる既習事項をすべて確認しておく。(忘れていたりして生徒間の認識の差が大きいと新しい知識の獲得に至らず、既習知識の少ない生徒は何も考えられない場合が多くなる)
- 【英語】既習知識を活用して、「町の紹介」などを仕組む場合、必要となる単語を再確認しておく。この場合、ICT機器の活用やフラッシュカードの活用が考えられる。(今までは、フラッシュカードは新出単語に偏りがちであったが、この場合必要と思われる単語全てが対象となる。)

その結果

勉強して知識を獲得すると新しい知識につながることをわかる  
(学びの大切さがわかる)

## 4 学校全体・学年全部で共通項を持って取り組む単元開発

- 例えば、人間関係形成能力を育成するために、新年度に「ピア・サポート」を活用して「全員がわかるまで教え合う授業」を行うとした時、一つの教科で行うより、学年全部や学校全体で取り組む方が、効果が大きくなる。

### 【Point】

- 資質・能力の育成を効果的に行うために、学校全体や学年全部で共通項を持って単元開発を行うことも考えられる。

## 5 教科ごとの単元開発のポイント

### 5-1 技能系の教科（音楽、美術、保健体育、技術・家庭）

#### 【これまでの授業】

- 教師が目標を設定し達成のための方法や注意点を説明
- 生徒は教師の指示に従って練習や作業を行い、教師の示した達成目標に近づける
- 教師が達成度を評価する

学びの  
変革

○教師は生徒が意欲・関心を持つモデルを提示

#### 【目標設定】

- 生徒が現在の技能を認識し、モデルに近づくための目標を生徒自身が設定

#### 【技能の習得】

- 達成目標に近づくためにはどうするか（課題）を考え、試行錯誤（PDCA）し、技能を磨く
- 一つの課題が解決したら次の課題を設定することを繰り返す、技能を高めていく
- \*ピア・サポートの活用

#### 【習得した技能や資質・能力の評価】

- 作品作りや音楽発表や試合・記録会を通して新たに習得した技能や資質・能力について生徒・教師が評価を行う。

## 5-2 課題発見・解決型の教科（社会，数学，理科）

○教師は日ごろから生徒が課題意識をもつ練習をさせる。【質問づくり】

### 【課題（目標）設定】

○生徒が興味・関心を持つ実際の出来事（社会），実物（理科），応用例（数学）から生徒自身が解決すべき課題（目標）を設定する。

### 【既習知識の確認】

○課題解決の方策を考えるために必要な既習の知識を再確認する。

○試行錯誤（PDCA）し，新しい知識を獲得する。

\*ピア・サポートの活用

### 【習得した知識や資質・能力の評価】

○自己評価やアチーブメントテスト等によって，新たに習得した知識や資質・能力について生徒・教師が評価を行う。

○単元開発において，単元の終わりに，より発展的な課題発見・解決学習を生徒に計画・実行・評価させることも可能である。

## 5-3 言語系の教科（国語，外国語）

### 【教科の目標】

○言語の特性を理解し，習得し活用する。

○人とのかかわりの中で伝え合う。

○自他の言語を尊重する態度を育む。

### 【課題（目標）設定】

○生徒が生活の中で興味・関心を持つことを表現する方法を考え，伝え合う活動の中で生徒自身が解決すべき課題（目標）を設定する。

### 【既習知識の確認】

○活用して課題解決の方策を考えるために必要な既習の知識を再確認する。特に外国語に於いては，既習の知識は習得していることを前提とするのではなく，習得していないことを前提とする。（繰り返しの必要性）

○試行錯誤（PDCA）し，新しい知識を獲得する。

\*ピア・サポートの活用

### 【習得した知識や資質・能力の評価】

○自己評価や生徒同士の評価，アチーブメントテスト等によって，新たに習得した知識や資質・能力について生徒・教師が評価を行う。